



2月号 (No.11)

2026年1月27日

帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

好きこそ物の上手（じょうず）なれ

帝京大学小学校 校長 石井卓之



図工の倉本教諭が「校長先生、2年生がこんなに上手な絵を描きました。」とあって、原瀧さんが描いたダイヤモンドの絵を見せてくれました。休み時間に図工室へ通い、倉本教諭から教えてもらったり、自分で工夫して学んだりした結果だそうです。私はその絵を見てびっくり！私が高校の美術の授業で描いた作品の上を行っていました。そこで1月19日のオンライン朝会で、事前に撮影した絵と描いた思いをビデオにまとめてもらい、紹介しました。原さんの他にも2年生の後藤湊人さん、4年生の鈴木瑠唯さん、5年生の加々美壮介さん・井上万絵さん、6年生の梅澤智乃さん・ダブ穰土さん・加藤優依さんの作品も一緒に紹介しました。

子どもの可能性は無限です。特に、時間に比較的余裕がある小学生時代は、自分の好きを伸ばせる絶好の時期です。大人から見ると、無駄なことに熱中していると思えることも、実はその過程に意味があります。色々なことを調べて深く思考したり、試行錯誤しながら粘り強く取り組んだりする中には、今後の伸びにつながる大切な要素が含まれていることが多々あります。原さんが絵を持ち帰ると、保護者の方はすぐに額に入れて飾ってくれたそうです。その称讃がさらに子どもを伸ばしていきます。

朝会で紹介した後、図工室で絵を描く子が増えたそうです。今後、教師から学ぶだけでなく、子どもが互いに学び合うことが継続すると、学びの縦割り集団ができていきます。そこにも期待しています。学年を超えた学びが深まると、異学年の教科学習が可能となります。その段階になると、帝京大学小学校の学びがさらに進化していきます。

実学をよりリアルに



5年生の起業家教育で、ドライフラワーやキャンドルづくりを支援してくださった、キフクリエイティブの山本様から声をかけていただき、1月24日（土）、25日（日）に原宿の gallery 〇〇で、4年生の帝小コーヒーと5年生の起業家教育の製品の店舗販売をしました。私も日曜日に様子を見に行きました。アフターの方や他学年の方も来店いただき、狭いスペースでしたが、2日間で38,800円を売り上げることができました。販売は5年生の学級の代表の人が行いました。初めはお客さんが来ても、挨拶や製品説明がうまくできませんでした。しかし、場数を踏むうちに、説明内容が洗練されて接客も上達しました。校内販売では経験できないリアルさにより、色々なスキルが高まっていく様子が感じられて、楽しくなりました。車いすに乗ったお子

さんと来店した方は、「帝京の中学校・高校は知っていましたが、小学校もあるんですね。とてもよい活動をしていますね。」と話してくださいました。ここでの体験が校内販売にも生かしていけると感じました。